

これまで培った物流センター運営のノウハウで、高品質の物流サービスを提供する名正運輸株式会社。

昨年9月には、道路交通安全マネジメントシステム「ISO39001」の認証を世界ではじめて取得、3PLの物流企業として、「リージョナルからナショナルへ」の展開を描く加藤新一社長にお話をうかがっている。  
(尾頭橋支店お取引先)



代表取締役社長 加藤新一氏

### 3PLの物流センター事業

御社は「運輸」となっていますが、具体的に何を運んでいるのかを言え、改めて事業の概要をお話いただけますか？

スーパーマーケットやチェーンストアの店舗で売られている商品、なかでもグロッサリーと呼ばれる商品を中心にトラック輸送を行っている、まずはそうお考えください。

グロッサリーというのは、レトルト食品、菓子、ジュース、カップラーメン、調味料といった冷凍・冷蔵を要しない食品です。

当社は、東海、関東、関西に18の営業所を展開していますが、営業所によっては、グロッサリーのみならず、衣料関連商品や住関連商品なども運んでいるところもあり

「まずは」と申し上げたのは、当社は単に物品の輸送（実運送）を請け負っているだけでなく、いわゆる物流センター業務を事業の中心に置いているからです。

物流センターは、ご承知のように、さまざまな商品を効率よく流通させるための拠点となる施設で、商業系の物流においては、なくてはならない役割を担っています。

基幹業務はあくまでもトラック輸送なのですが、競争力を高めようとするれば物流センター業務まで幅を広げるべきという面があって、物流センター業務にウェイトが移ってきています。

トラック輸送業務と物流センター業務の売上割合は2対1となっていますが、それぞれに従事する社員数で見ると1対2に逆転します。見方によって当社は流通業と言えなくもありません。

御社の行う物流センター業務というのは、具体的にどのようにイメージすればいいのですか？



調査月報 2013.6 1

2 調査月報 2013.6

#### 【会社概要】

- 本社 海部郡飛島村大室7-60  
TEL：0567-57-1551 FAX：0567-57-1555
- 設立 昭和44年6月
- 資本金 3000万円
- 従業員 1500名
- 車両数 300台

調査月報 2013.6 1

入れずに、大部分を名正運輸の社員・パートが業務にあたっている。これを基本にしているところです。こういう運輸会社は非常に少ないと思います。

### リスクを負ってでも高品質を名正運輸スタイル

自前が基本というのは、どういう理由からでしょうか？

いちばんの理由は品質（物流サービスの品質）を保つためです。運輸業に限ったことではありませんが、品質を劣化させることは、企業の信用を落とし、お客様からの信頼を失うことに直結します。

サービスの品質の劣化は、とくにクレームとなつて表れやすく、そのクレームにどう対処するかが、そのまま信頼を失墜してしまうか、信頼を取り戻せるかの分岐点です。

そういうときに、たとえば、運送を外部の会社に委託していたり、物流センター内で派遣社員を使っていたりすると、クレ

ームに素早く対応できないことが一般的には多いのです。クレーム情報が外部の会社や派遣元の会社を経由することで、今日、発生したクレームが、その日のうちに修正されないのです。

しかし、プロパー社員ならば、すぐに対応できます。クレーム対応にはスピードが重要なこと言までもありません。当社が自前にこたわっているのは、こういうことを考慮しているからで、この部分は強みにもなるでしょう。

半面、自前にこたわることでも大きくなるリスクがないわけではありません。プロパー社員が増えれば増えるほど、交通事故や作業中のケガなど、労務リスクは高まります。

しかし、リスクを回避しようとして品質を低下させるよりも、リスクを負ってでも高い品質をお客様にお届けたいと考えています。なぜなら、それがお客様に選ばれている運輸会社だと信じていますし、これこそが名正運輸のスタイルだからです。



本社

大手卸売業者の物流業務をまるごと引き受ける。そういうイメージです。

たとえば、スーパーは多種多様な商品を毎日大量に仕入れていますが、ほとんどの商品は、いったん物流センターに集められ、そのあと必要に応じて、それぞれの店舗に配送されます。この部分を担うのが物流部門で、スーパーは20年ほど前からこの部門をアウトソーシングするようになってい

ます。物流センターで行う具体的な業務としては、商品の受け入れ、在庫管理、ピッキング、流通加工、配送といった業務です。

ピッキングというのは、たとえばA・B・Cという商品を在庫保管していたとして、A商品を3個、B商品を2個出してくださいという荷主の指示にもとじて該当商品を出庫することで、流通加工というのは、包装、梱包、検品などのことをいっています。

最近、運送業界では3PLという言葉をよく使います。

3PLはサード・パーティー・ロジスティクス（3rd party logistics）。メーカー（売り手）をファースト・パーティー、卸売業・小売業（買い手）をセカンド・パーティーと呼ぶのに対し、売り手と買い手のあいだの物流を全面的に、そして総合的に請け負う業者をサード・パーティーと呼び、このサード・パーティーの請け負う業務が3PLです。当社の仕事は、まさにこの3PLなのです。

### 創業時からセンターを兼営

最近はその運輸会社も3PLをしているのですか？

物流を一括して請け負う3PLを行うには、ある程度の規模が必要です。全国には大小あわせて6万2000社ほど運輸会社があるといわれていますが、商業系運輸の場合、少なくとも100台以上のトラックがなければ難しいのではないかと思います。とくに店舗数の多い大手スーパーの物流を担うためには、かなりの規模が必要で

ます。もちろん、トラックをたくさん保有していればできるということでもありません。なによりも拠点となる物流センターを持っていなければならないし、その運営ノウハウも不可欠です。

また、単に商品を受け入れて、在庫管理だけで3PLではありません。3PLを行うことによって、お客様のたスーパーがメリットを享受できなければ、そもそも意味がないのですから、お客様が満足できる物流シ

のスーパーは、物流の効率化は運輸会社にとって任せるという姿勢です。

物流の最適化は3PLのキーワードです。また、物流の最適化は3PLがあるからこそ実現できることから、運輸会社にしてみれば、新しい顧客を獲得していくうえでの提案ポイントにもなります。

### 世界初 ISO 39001を認証取得

ところで、御社はISO39001を世界で初めて認証取得したと報じられていますが、どういふものなのか、簡単にお話しいたけ

ますか？ ISO39001は「道路交通安全マネジメントシステム」で、交通事故による死者や重大な負傷者の発生根絶を目標に、組織が取り組むべき要求事項を定めた国際規格です。道路交通安全にかかわるほぼ全業種を対象にしています。

昨年9月、JQA（日本品質保証機構）が世界で初めて認証を行い、そこで認証された企業が5社、当社はそのうちの1社です。運輸会社は当社だけで、あとは損保会社やリース会社、コンサルタント会社でした。

きっかけは何だったのですか？

2年ほど前、「今度、交通安全に関するISOが新たに策定されることになったので、名正運輸さん、取り組んでみませんか」と審査機関のほうから声をかけられたのが直接のきっかけです。

なぜ、最初に声をかけられたのかを考え



テムの構築能力やプランニング能力も必要になってきます。

こういうノウハウや能力は、一朝一夕に身につくものではありませんが、当社の場合、創業当初から物流センター業務を兼営してきたこともあって、スーパーが物流をアウトソーシングする時代になって、比較的スムーズに対応できたという側面はあります。

ただ、3PLを行なっている物流企業のなかには、トラックをほとんど持たずに物流システム構築やプランニングだけを手がける会社も少なくありません。そういう会社は、実際の運送や物流センターの現場作業を外部に委託するという形態です。

御社は、実際の運送も物流センターもしているとのことですが、それを御社の特徴と捉えていいのですか？

ひとつの特徴だと思いますが、もう少し幅広く捉えてください。

最大の特徴は、トラック運送も自前、物流センターも自前、物流システム構築も自前。しかも、派遣社員などはほとんど受け

調査月報 2013.6 3

ると、当社は3〜4年前からISO9001やISO14001、ISO27001、OHSA18001といったマネジメントシステムの認証を積極的に取得していた関係で、審査機関が当社のマネジメント体制をよく理解していて、きつと名正運輸ならば新しいISOにも取り組むだろうと予測したからでしょう。（もっとも、当社からもそういう意思を示唆してはいましたが…）

世界初のISOとなれば、まずは他社との差別化につながります。

また、じつのところ、「ISO9001などはモノづくり企業を想定したマネジメントシステムではないか。運輸会社にあてはめると、どうしてもしっくりこない部分がある。もっと運輸会社にあったISOがあれば、おもしろいの」にも思っていたところでしたから取得することにしたのです。

3PLに、以前から社内にも安全委員会を設けて、交通安全への取り組みを意識的に推進してきましたから、これを第三者機関が評価したとき、妥当と判断するかどうか、つまり国際的なレベルに達しているかどうかを確認（検証）できる良い機会だとも考えました。

ただ、ISOのためのISOな

